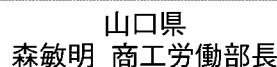


座談会

座談会出席者

いる。

山田(哲) 当社は18年に100周年を迎える。その年に売上高5000億円という大きな目標を掲げ中期経営計画を策定し、目標達成に向けた取り組みを進めている。当社の事業はセメント、化



由光岡連、成長戦略事業に医薬、電池材料、ポリミッド・チエン、半導体などに入、こうした分野に大資金を再配分する。中核基盤事業のカプロラチウムチエン、セメント・生コン、機械など、利益を稼ぎ、成長戦略事業へ投資する。

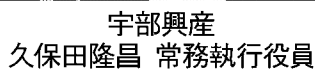
宇部産産は連結ベースで約1万1500人の社員が働いており、このうち宇部地区には半分の約6500人がいる。国内の工場では最も大きく、ナロンではマザ工場として研究開発宇部ややっていて、研究開発はマザ工場に近ところでも行う必要があるため、近年はタイやスペインにも

の山口県は素型産業が集積して、るほか、台湾、自家発電電網などインフラが整は、東南アジアなど競争できる条件にあてて、東南徳山製造所では人材育成や技術開発とマザ工場と技術提携協定を取り組む、の機能を高める取組む、行ってきた。

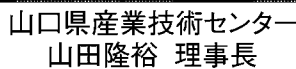
山口県や山口大学との協業という意味は、山口工業という意味は、山口工業と04年に包括提携協定を結んだ。現在、マレーシアで多結晶シリコンを生産する準備を進めているが人材確保に苦労している。技術以外人材面でも連携して、きらいに思う。また工場を生産する水素を使い、岩谷産業と会社を設立し、液化水素の事業を始める。

素材産業集積が強み
環境と新興国に期待
海外人材確保で連携
クラスター事業で成果
水素の利活用を検討

森氏
久保田氏
山田(哲)氏
三池氏
山田(隆)氏



三池
たばかり
を育てる
部屋を貸
している。
ただ来年
度から事
業を始め
る会社も
あり、事
業化に向
けた動き
は加速し
てきた。
——大学
などのシ
ーズを地
元中小企
業に展開
するのが
山口県産



数字として。例えば特許1・2年目は思わしくなかったが、3年目となる今年度は増えた。地域の企業の何となく思いつき残れないという思いとマッチングしたのではないか。3年間の累計では目標を大

きく上回ることができた。独立行政法人化した今年、ようやくグリッド部材クラスタ事業の中核機関となった。この事業では県内企業がしつかり成果を出している。LEDの街路灯を製品化した会社は売り上げが大幅に増えている。また県内企業の工場から出る副生水を地域資源としてとらえ、その利活用を地域の企業と進めていく。現在実証プラントを建設しており、地域の企業がどんな技術開発をするべきか検証する。山口では昨年5月に包括連携協定を結んでおり、今後しっかりとやっていきたい。



Chemistry with a heart
TOKUYAMA

ものづくりに奇策はない。

1980年代に世界に先駆けて量産化に成功した
 高純度窒化アルミニウム、シェイバル。

世界最高レベルの超高純度イレブンナインを誇る、多結晶シリコン。

前例のないものを発想し、
 その発想を粘り強くかたちに仕上げていく。

ものづくりに近道はないけれども、つねに前を向き、
 新しい時代の価値を模索しつづけていきたい。

トクヤマはそう考えます。

化学の心と、人の力。トクヤマ

<http://www.tokuyama.co.jp>